

令和 2年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

片山中学校区 校番17

学校名 呉市立荘山田小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力の定着	国語・算数科単元末テスト平均80点以上の学年の割合は、100%であった。目標値は100%であり、達成度は100%である。学年や単元によって課題がある。そのため、習熟を行う時間をしっかり確保する。	放課後学習会や積み上げタイムを活用し、一人一人の児童のつまづきを見付け、学習内容を確実に定着させる。
		思考力・判断力・表現力の表現	新型コロナウイルス感染防止対策のため、授業研究は実施しなかった。そのため授業評価表による肯定的評価の割合から見取ることができなかった。日々の授業も児童にさせたいことができにくい状況に悩みながらも、工夫しながら進めているという状況である。	話し合い活動を短時間で行う、座席の配置を工夫する、付箋を活用する話し合いのスキルを向上させるなど、新しい生活様式の中で、できることを見付け、「学び合い」を工夫しながら取り組む。
**	規範意識を身に付け、ふるさと荘山田を愛する児童の育成	礼儀・規範意識を身に付けた児童の育成	右側歩行等を意識付けるために、廊下の矢印による見える化や、生活目標で重点的に取り組んだことは有効であった。しかし、廊下を走る児童を見ない日は1日もないことから、達成度は0%で評価はDである。	各学級で振り返るだけでなく、廊下を走る児童の数を見える化するなどして、更に児童の意識を高めていく。
		ふるさと荘山田を愛する児童の育成	「荘山田の好きなところ」を児童アンケートで調べたところ、10種類挙がった。達成率は100%で評価はAである。しかし、臨時休業の影響による教科学習の遅れへの対応を優先させ、地域学習がほとんど実施できていないため、全学年とも「地域の人」に関わる回答がほとんどを占めていた。	各教科の学習内容の進捗が安定してきたので、今後、地域学習も計画に従って進めていく。
*	心身ともに健康な生活を主体的に構築できる児童の育成	望ましい基本的な生活習慣の確立	生活リズムアンケートの結果、「決められた時刻までに寝る」児童の割合は、86%であった。目標値は90%であり、達成度は96%、評価はBである。家庭での生活習慣の違いによって、決められた時刻までに寝ることができにくい児童がいる。就寝時刻の妥当性の検討も必要ではと考える。	健康観察カードに記入した就寝時刻をもとに、児童への日々の声かけを行うとともに、家庭の協力が不可欠であるため、通信等を利用して繰り返し保護者啓発を行っていく。また、達成できにくい児童には、理由に応じて指導し、保護者に協力をお願いする。
		課題意識を持ち、体力を向上させる児童の育成	4月中旬からの臨時休業で、走力を向上させるための取組が行えなかった。そのため、当初予定していた6月の50m走の実施を見送った。4月の記録は、前年度から記録は伸びているものの、県平均には届いていなかった。	呉チャレンジマッチの「ダッシュリレー」や「鬼遊び」を行う等、走る機会を多く設定したり、楽しみながら走ることができる工夫した運動遊びを取り入れたりして、体育科の授業の中で目的をもって楽しく活動できるようにする。また、今年度購入したラダーを使った運動を充実させる。

業務改善	教職員が意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	週2回実施していた職員朝会をやめたり、スクールサポート・スタッフの導入により、担任による印刷や消毒作業を軽減したりして児童と向き合う時間の確保をしたが、目標達成には至らなかった。否定的な回答となった理由を明確にする必要がある。	業務改善についてのアイデアを教職員で出し合い、できることから取り組み、児童と向き合う時間の確保ができているという意識を高めていく。
		長時間勤務の削減	時間外勤務時間が45時間を超えた教職員は、4月7名、5月2名、6月5名、7・8月2名、9月3名であり、目標は達成できた。1日2時間以上の時間外勤務をしないように意識したり、声かけあって退校時刻を調整する等、教職員の意識が高まった。	毎週水曜日の定時退校日(17時15分)の徹底、管理職の時間外勤務の削減により、メリハリを付けた業務を行う。